

# ミルクィーウィーンフィーダーの農場視察

## 1. はじめに

以前にも HP 上でご紹介したことがある早期離乳用の給餌器の件で、使用農場(ベルギー)を見せてもらう機会がありました。改めてフィーダーの特徴や成績情報等もありましたので併せて報告します。

## 2. 農場の概要

母豚数 320 頭の繁殖農場で、4-5 のグループ管理(4 週分の分娩を 1 週間で集中分娩させ、母豚群を 5 つのグループに分けてバッチ管理するシステム)の農場でした。1 バッチで 60 前後の腹数を確保しており、生後 8 日目くらいまでで差が出た弱小子豚を集めて特設ナース小屋に移動します(早期離乳させてしまう)。この時ナース母豚と同様に活躍するのがミルクィーウィーンフィーダーです。まさにナース母豚ロボットです。このフィーダーを利用し母豚当りの離乳頭数は 33 頭を達成しているというから驚きです。

このフィーダーを 8 日令から 28 日令までの約 3 週間使用し、その後分娩舎に残した元々の離乳子豚と混ぜないで離乳舎へ移動します。豚は 30kg 前後で販売になります。

以下の情報の一部はメーカーの Mattmuller 氏(営業担当者)から教わったものも含めて載せてあります。

### ① ナース豚の様子

フィーダーは若干餌が出過ぎの感がありました。案の定、生産者自身も最近下痢があると述べていましたが、75 頭も詰め込んで 1 台で管理されていたのでこのような結果になるのもしかたないことかもしれません。あと 4 台導入してさらに生産増加を図りたいとその性能には大変満足している様子でした。これで育てたいが、まかないきれない子豚が



多数いるものと想像されます。メーカーによると最大キャパは 45 頭ということだったので 75 頭に対して少なくとも 2 台は必要ということになります。

17日令の子豚。左がナース、右が本来の母豚についている子豚。ナースの場合は10日間ほどミルクィーウィーンフィーダーで管理されているところ。どちらの子豚もスス気味だったので完璧な状態ではない様子。



タイマー付きのかわった給餌器: 離乳以降で制限給餌する EU ならではのフィーダー  
 右はミルクウィーンフィーダー (ホッパー内の人工乳がタイマーセッティングに応じてオー  
 ガーで練り餌となって下皿に送りだされる)

(下は 2 代目の農場主: Bart Gruwier さん)



### 3. ミルキーウィーンフィーダーの使い方(おさらい)

#### ナース母豚の代わりに特殊なフィーダーで

母豚からの乳量を十分に取れない場合や多産系の母豚で母乳が足りなくて成績がでない子豚の対策としてナースの試みがEUでは応用されている。

農場で使用している人工乳やクリーブなどを手軽に使用して「ミルクウィーンフィーダー」という特殊な給餌器をナース母豚の代わりに使用する。

1 時間を 1 サイクルとして、そのうち 10 分だけ餌が出る、50 分で餌が止まる、母乳を飲む同じサイクルで練り餌を与えるユニークな仕組み。そのため消化器に過度なストレスを与えることなく順調に固形飼料に移行が可能。

#### 特徴:

- \* ホッパーには人工乳をそのまま投入
- \* オーガーが回ると同時に温水で練り餌状の餌がトレイに出る
- \* 1 時間の内 10 分からタイマーで自由に給餌を調整
- \* 新鮮な餌を給餌できる(豚の数、日齢、水分量や餌の出方を検討する)
- \* 水を温めて与えられる(ヒーターの ON/OFF は自由に選択)
- \* 対象は 4 日令から 35 日令くらいまで(3kg~15kg まで)
- \* 子豚数のキャパシティ: 最大 45 頭までなら問題なし

### 離乳後の餌の切り替えのスムーズな移行に

離乳後の比較的小さな豚を切り替えのスムーズな特殊フィーダーで管理することは、様々なストレスが多いこの時期の豚にとって必須管理の一つになるかもしれません。ただし意外と大きい子豚の方が、切り替えがスムーズにいかないこともあります。離乳後 10 日間くらいこうした特殊フィーダーで慣らしながら育成すれば、大きな子豚に追い付くかもしれません。使用方法はナース母豚として使用する際と全く同じです。

今回は分娩舎で引き抜いて群編成した農場を見学しましたが、メーカーの営業によると、最も取り組みやすいのが離乳後の小さな豚を集めて利用するケースです。離乳日令にもよりますが、フィーダーを壊さない程度の 35 日令くらいまでが限界と見ます。ただし 1 台のフィーダーに～45 頭の子豚をつけられるように設定した方が効率も良いとのこと。コストメリットを生かすにはバッチ管理が良さそうです。日本ではまだバッチ管理が一般的ではないので、経済的なメリットを生かすには色々な課題があると思います。

もう一つの方法が、今まで述べてきたように分娩中～後期のナース母豚の代わりに利用するというものです。日令は大きい方がやさしく安心ですが、最低初乳はしっかりと飲んでいることと 4～5 日令くらいになれば問題ないそうです。問題は保温箱相当の環境を保持できる施設(特設ナース小屋)を持てるかどうかです。

トランジションフィーダー初期試験テスト

試験グループ	頭数	平均開始体重 (kg)	試験期間	平均終了体重	平均一日増体 (g)
98年10月26日	16	4.68	13	9.70	386
98年11月30日	17	6.88	8	8.87	249
98年12月09日	18	7.06	9	11.31	472
98年12月18日	16	9.58	9	15.11	615
99年02月12日	19	9.04	7	12.17	447
99年04月16日	22	7.39	12	11.55	347
99年04月23日	22	8.13	14	14.35	444
99年04月30日	22	7.82	7	9.59	253
99年6月	30	4.60	7	6.91	330
99年6月	16	4.68	14	10.49	415

Pioneer Transition Feeder - Trial data 28 May 1999 C:\winword\pioneer\pioneer3

◎トランジションフィーダーは温水が出ないミルクウィーンフィーダーの事で、離乳後の豚で利用するように設計されたものです。

いずれにしても多産系の母豚を日常管理するような時代にあると、どうしても生まれすぎてしまう子豚の扱いがネックになるものです。母豚の許容以上の子豚をいかに並みに育てていくかという究極の課題に対応するフィーダーと思います。実際にそうした状況に直面する人は是非お問い合わせください。